

- ◆ 会場：柏崎原子力広報センター 2F 研修室
- ◆ 出席委員：新野・石田・川口・久我・佐藤・武本・渡辺（五）・渡辺（丈）
浅賀・伊比（隆）・伊比（智）・千原・中沢・宮崎・吉野・渡辺（仁）委員…16名
- ◆ オブザーバー：保安検査官事務所／金城所長 地域担当官事務所／沼田所長
東京電力／長野室長・守課長 刈羽村／名塚課長補佐・飯田副参事
- ◆ 事務局：柏崎市／藤巻主任 広報センター／押見事務局長・木村

【前半】

ラウンドテーブル研究会について

- 保安院、金城所長より
 - ・ 12月6日（水）4時から開催。
 - ・ 運営委員の中から可能な限り、出席をいただきたい。
 - ・ 会の目的は、規制当局側が社会と円滑なコミュニケーションを図って、信頼される安全行政を進めるにはどのようなやり方がいいのかというあたりを、専門の先生方を招いて議論している会。
 - ・ 当日は、自己紹介のあと、ラウンドテーブル研究会の事務局から会の紹介をしてもらい、地域の会の主旨と活動については押見事務局長から説明してもらう。4時45分から自由討論の予定。
- 委員より
 - ・ 地域の会は、一回見てもらったぐらいで理解できる会ではないが、まったく見ないよりは来てもらったほうがよい。
 - ・ この会が終わった段階で、報告などはどこへいくのか。→保安院への報告になる。保安院のプロジェクトの中の更にその下のプロジェクトという位置付けなので。（保安院）
 - ・ 参加される研究会の方たちの考えというのも聞かせてもらえるのか。→自己紹介や自由討論の場で聞けると思う。（保安院）
 - ・ 運営委員より6名参加。
- 事務局より
 - ・ 会の主旨等については、市の課長にお願いした。
 - ・ 原子力保安検査官事務所の前所長木野氏が、別件でこちらに来る用事があり、地域の会にも出席。

次回以降定例会内容について

- 第42回定例会（12/6）6時半～
- 保安院より
 - ・ 東電事件の前からの検査制度（特に定期検査）がどのような形で位置付けられて、制度が変わってきたのかというあたりを説明。
 - ・ 東電事件以前から現在までの移行を説明して、その上で、検討している検査制度の概要を説明する予定。

- 東電より
 - ・ 最初に東電から、不祥事前の検査制度がどういう形でやっていたかと、不祥事後、どういう風になって現在どんな形でやっているのかを、20分くらいの時間で説明した後、保安院のほうへバトンタッチしたい。

- 委員より
 - ・ 不祥事前後の具体的な事象で、説明してもらったほうがわかりやすい。
 - ・ 検査制度の変化を時系列で示してもらって、なぜ変更したかというあたりを簡単に記載してもらったほうがいいのでは。
 - ・ 不祥事後、検査制度が変わったにも関わらず、いろいろな事件があり、これからもこういうことが繰り返されるのではないかという心配がある。その辺の納得できる説明がほしいが。
 - ・ コバルトの件については、当日、話に出るのか。→前回以降の動きの中で触れたい。5人の、健康に影響のない放射線の内部取り込みについてと、キャスクの吊り具から、微量の放射性物質が確認された件についても説明。10分程度。(東電)

- 第43回定例会(1/10)6時半～
 - 東電より
 - ・ 4号機のPLR配管については調査を実施中。年内に調査結果がまとまる予定だが、1月の定例会に間に合うかどうかはわからない。

 - 委員より
 - ・ 1月の内容については、12月の積み残しを見た上で検討。

- 第44回定例会(2/7)6時～8時(懇親会8時半～)
 - 会長より
 - ・ 終了後、懇親会を予定しているので、6時から開始としたい。
 - ・ 各首長からの話の詳細については、今後検討。

委員質問書について

- 委員より
 - ・ 提出された委員の質問事項については、定例会時に紙で配布してもらいたい。口頭だけの回答になると、何に対しての回答か分かりづらい。回答は口頭でもかまわないが、委員の質問書については配布してもらいたい。

- 刈羽村より
 - ・ 防災の担当は総務課となっているので、説明する事項があれば出席してもらおうが。→総務課からの文書での回答でよい。(委員)

➤ 東電より

- ・ 送電ロスの場合はどのように説明すればよいか。→前回は 100 万キロワットでの説明だったが、柏崎刈羽の場合は 7 基動いていれば、だいたい 800 万キロワットなのだから、送電ルートが 2 ルートあるなら、400 万キロワットでの送電ロスの説明をすべき。(委員)

関電・もんじゅへの感想、表書きについて

➤ 表書き内容の検討

- ・ 重複している文書の削除。
- ・ 「この内容」→「別紙内容が」に変更。

視点について

- ・ 文頭の部分、「地域の会では」という部分と「質疑応答を行った」という部分はカット。
- ・ 文頭の部分、「見識を高めるため…」という言葉、別の言い方に。
- ・ 「関西電力にしなかった…」→「関西電力に報告をしなかった…」に変更。
- ・ 委員の感想部分の冒頭の丸はもう少し大きく。
- ・ 編集後記の最後の 5 行をカット。
- ・ 「減ったことと思う。」→「減ったことだと思う。」に変更。
- ・ 「定期パトロールに…」→「定期パトロール中に…」に変更。
- ・ 「…敬意を表したい」→「…評価したい」に変更したほうがいいのではないか。
- ・ 「緊急冷却装置が外に丸くなってノズルが出ていたが…」という言葉の意味がよくわからない。
- ・ みんなの広場の「ですます調」の統一は、本人の了解をとって、修正したほうがいいのでは。

➤ 事務局より

- ・ 市、東電の修正後のものを委員に配布してあるが、新たな大きな変更事項を確認してもらい、その他の詳細に関しては、事務局一任でお願いしたい。

↓

➤ 委員より

- ・ 最初は、市が作成した原案としての誌面を検討するだけだったが、それでは広報委員としての役割を果たしていないということで、運営委員と広報委員が検討することになったわけで、時間の都合で委員検討の部分を外すというのは、本来あるべき姿ではないので、以後事務局には時間配分等、配慮してもらいたい。

【後半】

これまでの活動を振り返って

- ・ 副会長より、今後の会のあり方に関するアンケート集計の報告。

今後の地域の会のあり方について

● 会の主旨に関して

- ✓ この会の委員は任命されてやってきたわけで、今後の会のあり方を委員だけで決められるものなのか、委嘱した自治体の意見がどうであるかが問題なのではないか。要望はできても、決定はできないのではないか。

↓

➤ 会長より

会長、副会長、事務局で、事前に市長と村長との懇談を持った。

- ・ 市長に対しては、会に対してどういう認識なのかということを知り、自分たちの活動している内容を説明をした。

市長及び市担当→会としての大幅な逸脱がないものと認めるので、会として、どうあるべきかという委員の意見を逆に聞きたい。それがある程度の枠からはずれないものであれば、地域の会の方針として進めることを認めて応援したい。

- ・ 村長に対しては、この会の設立の発起人のような立場でもあるので、この会が主旨に見合うような活動をしているのかというあたりの感想や、これからのことをどう考えているのかということなどを聞いた。

村長→すぐにやめるという内容の会でない。細かい議論の中で住民の視線というのを忘れないで活動してほしい。

- ・ 両者ともに、この会から賛成・反対を排除するつもりはなく、バランスがこの会の生命線だという考え。

- ✓ 自治体は、地域の会継続という意志だということを知っていいのか。

↓

➤ 副会長より

地域の会の主導でいくということで、意志確認をしている。

● 公募に関して

- ✓ 4人くらいの公募となると大変だとは思いますが、2名くらいの公募はしたほうがいいのではないかと。

- ✓ 公募枠というのは、公平性の担保にもなっているわけなので、入れてもらいたい。

- ✓ 来年度、団塊の世代の退職者が出てくる。こういう人には地域にもどってもらいたいという思いもあり、公募の枠を設けてもらいたい。

- ✓ どうしても、こういう会に参加したいと思う人もいるだろうし、そういうことを考えると公募をしてもいいのかなと思う。

- ✓ 市民の目線の方が応募してくれればいいと思うが。

- ✓ 公募をした経験もあるが、一般的に公募というと、専門的な知識を持った人しか応募してこないというのが現実。

- ✓ 多数の応募があった場合、どういう尺度で人選するのが問題。

- ✓ こういう会には、公募というのはそぐわないのではないかと。希望多数の場合の絞り込みをどういう風に誰がするのかということを見ると難しい。せっかく4年間かけて、うまくま

とまってきたと思うので、少し様子を見るということでもいいのではないかな。

- ✓ 結論を出す会ではないので、こういう会に公募というものが馴染むのかという思いがある。
- ✓ 地域の会の構成メンバーというのは、一定の目標に向かっていく団体の公募とは違っているの
で難しいのではないかな。
- ✓ 公募というのは、一定の隠れ蓑的なものという捉え方もできる。この会は隠れ蓑的なもののため
にしているのではなく、この会の主旨に沿ってやっているんだという自信を持って、公募な
どせず、やってもいいのではないかな。
- ✓ 公募すると、どんどん専門的な分野に入り込んでいくように思う。多少、発言の少ない委員が
いてバランスもとれていると思うのだが。

➤ 会長より

公募については、アンケートで見る限り、半数あまりが「公募したほうがいい」という意見だ
ったが、今日話し合ったことを踏まえて、再度、公募希望かどうかの決をとらせてもらいたい。

↓

公募希望者（挙手）・・・3名

➤ 副会長より

今日の議論と再度希望をとった結果を踏まえて、公募については、欠席者もいるが、次期は見
送ることとしたい。

● 人選に関して

- ✓ 公募という前に、24名の委員の中で、1年通してほとんど出席しないという人がいるようだが、
その団体に打診して、もし今後も同じようなことになるのであれば、違う団体に振り替える
というようなことをすべきではないかな。

↓

➤ 会長より

知っている範囲内ではあるが、その委員さん所属の他の団体の会合が、地域の会開催の曜日と
重なるために出席できない方と、事情により仕事の役職が格上げされ、かなりハードな状況で
出席できないという方がいる。

- ✓ 出身母体の中で、次の人に代わる可能性のある団体と、継続する人の把握が必要なのではない
かな。
- ✓ 出席不可能な人に関しては、団体にもどして考えてもらう必要がある。
- ✓ 刈羽村の地域枠的なものを入れてもらいたい。
- ✓ 全体の総数を変えないということであれば、柏崎市の町内会長枠の1つを刈羽村の枠として入
れてもいいのではないかな。
- ✓ 団体の意向を聞くとか、違う団体に振り分けてもらうとかの調整は、やはり行政にやってもら
うべきことなのは。
- ✓ 会に入って1年目というのは、どのようにこの会とつきあっていけばいいのかわからないよう
な状態。やっとわかってきたときに改選となるわけで、人が変わっても同じベースでいけるの
かという問題がある。人を変えるのか、変えないのか、どうしてもだめな場合だけ変えるとか、
そういう方向に持っていかないと、会の理解という部分で難しいのではないかな。

- ✓ 前向きな会だと思っているので、全員のメンバーを変えるようなことはせず、評価した上でこの会を進めていっていいのではないか。
- ✓ 仕事を持っている委員さんもいるわけで、やむなき理由の場合は、途中交代のできる方法があるのかどうか。

➤ 会長より

専門的なことをめざしているわけではないが、事象が起きたときに理解しようとする、専門的な話を聞くことになってしまう。専門的な情報のやり取りが好ましいとは思っていないし、東電も保安院も説明の仕方に苦慮している状況がある。

まだ、会としては過渡期で、自分たちがやりたいことがまだやれていないし、今があるべき姿だとは思っていない。

ある意味、実験的な会なので、委員みんなが思っていることを言い合って協力してもらわないと、いい会にはならないと思う。わからない説明に対しては、わからないという意思表示をってもらうことで、説明する側と説明を聞く側が近づけるということもある。こういうことを重ねながらの実験途中の会であるという認識を、委員全体に持ってもらい、自分たちが作っているんだという意識でいてもらえると有り難い。

↓

- ✓ そういうことであれば、委員を変えずに長くこの会にたずさわるべきで、任期ごとに人が変わっていたのでは、地域の会としての意識を持つことは難しい。

● 委員のバランスに関して

- ✓ バランスは人数によって決まるわけではないが、要因として人数のバランスも考える必要がある。
- ✓ 賛成・反対・中立と、委員の中では分かれているというが、公平なバランスとは思えない。もともと推進派だった団体が、今現在、中立のような立場になっているので、その辺のことを考えながら、バランスをとってほしい。
- ✓ 議論の内容によって、バランスは崩れる。
- ✓ いろいろな考えをもった人がこの地域にいることは事実。そこをどう、折りあわせをつけるかということが難しいところ。
- ✓ 組織によっては、参加する人によって考え方は違ってくるので、反対派の団体だからといって、全てが、同じ程度の考えというわけではない。
- ✓ バランスはいいと思う。賛成であっても、この部分は疑問だと感じる場面もあるわけで、それは当然のこと。
- ✓ バランスに関しては、委員を数字できっちりと区切る必要もないのではないか。

● 「地域の会」に関して

- ✓ 最初の1年間は、この会は分裂するのではないかとわれながらきたわけで、そういうことから考えると、この会自体は成長していると思うし、バランスというより、委員1人1人が自分の考えをしっかり持っているように見受けられる。
- ✓ 矛盾や疑問をこの会で議論するのは大事。ついていけなければ、この会に参加する以上勉強することも必要。この会がなくなるのは、原発に対して何の心配も無くなった時。

- ✓ 会が十分機能を発揮しているかどうかはわからないが、ものすごいエネルギーを使っていることだけは事実であり、大変な会だという認識がある。一定の結論を出すわけではなく、賛成・反対・中立の意見があって議論することで、透明性確保にプラスになっていると思っている。行政が国や県に対して言えない部分もこの会では言えるわけで、そういうことも背負いながら、それぞれの立場に立って、エネルギーを使って議論しているという事実の意味するところは大きい。
- ✓ 反対派の中には、近づきたいと思う人もいたが、会を重ねる毎に、こんなに勉強している人はいないというような尊敬の思いもあり、こういう人たちがいるからこそ、生活の安心を得られているのではないかという感じもする。
- ✓ 最初の立ち上げの時は、この会は、東電不祥事で全号機止まった発電所を再開させるための舞台なのではということと言われ、会を進めようとしていたのは、むしろ推進のほうだった。この会を作ったときの初心を大事にすべき。
- ✓ 市民の声をたくさん出してくれということで会が作られた。市民が何の疑問を持っているかということに耳を傾けて、その声をこの場に集めてくる仕事をしていると思えば、意味あること。自分たちが何の役割でここへ来ているのかということを確認しあえればと思っている。
- ✓ 勉強不足で、議論に加わることができないことが多いが、それでも参加するたびに、何かしら勉強して帰ることができるし、それを伝えることもできる。いろんな激しい議論が出たとしても、賛成・反対ということではなく、行政や事業者に奮起してもらおうという考え方に基づいての発言だと捉えている。
- ✓ 出席率がいい会であるという印象。わからないながらも積極的に発言すべきだと思う。
- ✓ 国や県など、行政も委員の要望に応じて、非常に前向きに回答している態度などを見てもすごい会だと感じている。これだけ違う立場の人たちをまとめている会というのも、初めてだったこともあり尊敬している。
- ✓ 原発に対する知識の濃淡はそれぞれ人によってあるのは当然。原発のある地域にこういう会がこの先ずっと必要なと思うところもあるし、広報で出される事象の説明で十分なのではないかという思いもある。

● 今後の予定に関して

➤ 会長より

- ・ 1月に、今日話し合われたことをまとめる時間がとれるのではないかと思う。(今後の方針とか)
- ・ 各委員さんには、内々で改選の時期等を、各団体で言うておいてもらえば、正式文書は2月に入ってからでも間に合うのではないか。
- ✓ 町内会等、メンバーを変えるところがわかっているところは、1ヶ月なり2ヶ月なりラップして、会を傍聴してもらって、次の人に引き渡すということをやったほうが良いと思う。
- ✓ 選出母体ごとの調整まではできるが、それ以降については、一部行政にやってもらわなければならない部分もあるのではないか。
- ✓ 任期中の交代の件や、課題などをこの1ヶ月くらいで集約する。

ラウンドテーブル研究会について

- ・ 会長より、全委員に内容の説明。
- ・ 運営委員より6名出席するということの報告。

【前半の続き】

市の防災に関するパブコメについて

- ・ 今回、委員からの要望は特に出されていないのだが、会としてまとめたほうがいいのか。国民保護計画素案の件はまだ来月1ヶ月の猶予があるということで、その時にまとめて出すのかどうか。
- ・ 市の防災のパブコメ表紙に「通信手段の多様化」とあるが、「通信手段の多重化」のほうがいいのではないかと思うが、市のほうで確認してもらえないか。
- ・ 過疎の問題も深刻。地域でいろいろ考えるべきことでも、地域として機能しなくなりつつあるという問題。
- ・ 市の課名で、「原子力」という文字が消えたことは問題。これだけ大きな原子力施設がありながら、「原子力」という名前が消えることはよくない。原子力防災と、一般災害の防災は、別々の課であるべき。
- ・ 今月末までのパブコメについては意見せず、次回の国民保護計画素案の締切までに、あわせた形で考えることとする。

次回運営委員会について

- ・ 1月定例会の内容、パブコメ、積み残しになった人選の件やスケジュール的なもの話し合いが、次回運営委員会の内容。

会のあり方の続き

- ・ 委員の交代の件等もあるので、規約の改正についても考える必要があるが、今の段階で急いで議論する必要はない。次期、新委員が決まった段階でも遅くはない。
- ・ 任期中の交代に関しては、かなり意見が出ていたので、規約を変えるという方向で考えていくということでしょうか。
- ・ 次期委員をどうするかということ、まず各々団体に打診することが先決。
- ・ 自治体から、NPOという言葉も出たが、こういう会でNPOというのはあり得ない。自治体は、立ち上げたそれなりの責任はあると思う。そういう点での議論はもう少し必要。
- ・ おおよそ現状の状態でいくということを決めることはできても、人選などに関してはやはり、行政にやってもらわなければならない部分はある。
- ・ 今日の会議は非常によかった。年に一度は委員の意見交換をやるべき。